

ふかといひき、かのひとは、これを費とせちに思ひけんかし。

〔醒睡笑<sup>吝</sup>太<sup>郎</sup>〕すぐれてしはき者の、たまくと得たる客あり、何をがなとおもひても、在郷の風情なれば、心計やなど、いふ處へ、豆腐はくと賣りに來れり、亭主豆腐を買はん、さりながら小豆の豆腐か、いやいつもの大豆ので候と、それならば買ふまい、めづらしふあるまいほどにと。